

第1学年 図画工作科学学習指導案

い組 男子 17 名 女子 18 名 計 35 名

指導者 中原 大士

1 題材 さわって こすって

2 題材について

(1) 題材の位置とねらい

本題材は、身近なものを触って、表面の感じを紙に写し取り、材質の特徴を見付ける造形遊びの題材である。

この期の子どもたちは、身近なものに進んで興味を示し、材料や場所、環境などに体全体でかわり、自分なりの感覚や気持ちを生かしながら活動する。また、つくりながら考えたり、結果にこだわらず様々な方法を試したりすることで発想が連続・発展していく。そして、活動や場、体験と感情が密接に結びついているため、身近なものを直観的、感覚的に捉え、対象の特徴や面白さを味わい、それらを生かしながら造形的に表現するようになる。

そこで、本題材では、材料や場所、こすりだした模様を、模様の形や線、触ったりこすったりした感じといった造形的な視点で捉え、発見した特徴や面白さと材料や場所へのイメージと関係付けて、新たな表現を追求する活動を通して、もっといろいろな材料や場所、こすりだした模様の特徴や面白さを発見したいという意欲を高めていくことをねらいとしている。また、材料や場所こすりだした模様を造形的な視点で捉え、その特徴や面白さを味わったり、造形的な視点を基に、表したい新たな活動を想像したりして感じ取る力やつくりだす力を伸ばすことをねらいとしている。さらに、材料や場所こすりだした模様の特徴や面白さが表れるようにパスを使い、こすり出す技能を高めることもねらいとしている。

このような学習は、第1学年の「お山のおまつり」で、自然物の特徴や面白さを生かして発想し、様々な自然の材料を使いながら体全体を使って表現する活動へと発展していく。

(2) 指導の基本的な立場

本題材で扱う材料や場所は、材質の特徴や種類が多く、紙にこすりだすことで、それぞれの材質の特徴に合った模様を表すことができる。また、一見、同じ模様に見えても、さわったり、こすったりすることで、材質の特徴の違いに気付くことができ、模様のイメージに合わせて場所を選ぶ楽しさがある。さらに、こすり出す際に使用するトレーシングペーパーは、丈夫な上、容易に材料の表面を漉かし、こすることで凸凹を写し出すことができるため、自分のイメージと比較しながら、模様を写し出す楽しさを味わうことができる。

そこで、本題材の展開にあたっては、身近なものを触って表面の様子をこすり出すことへの思いがつながり、高まるようにするために、いろいろな場所や材料をこすることへの思いや表現上の課題を具現化する題材のめあてや、活動のめあてを工夫することが大切である。また、造形的な視点と自分の思いやイメージとを関係付けながら、多様な表現を楽しむことができるようにするために、互いの表現の面白さを見いださせたり、表現の面白さから見いだした視点を基に、表現させたりすることが大切であると考えらる。

具体的には、まず、材料や場所をさわったりこすったりすることに興味をもたせるために、教師がこすってみせ、やってみたいことや不思議に感じたことを交流して、「自分もいろいろな場所や材料をさわったりこすったりしてみたいな。」という表現への思いを基に、題材のめあてを設定する。次に、実際にこすってできた模様を黒板に並べ、模様に違いがあることへの気付きを基に、表現の違いから「模様の形・線」や「触ったりこすったりした感じ」といった造形的な視点を見いだすことのできる活動のめあてを設定する。さらに、いろいろな材料や場所、こすり出したものを見たり、特徴や面白さを感じることをのよさを実感させたりするために、見いだした造形的な視点を基に、模様を予想し実際に模様から場所や材料を探す活動を設定する。

これらの学習は、造形的な創造活動に粘り強く主体的に取り組んだり、自分の身のまわりの材料や場所の特徴や面白さを感じ取ったりしながら、自分や周りのものごとの意味や価値を感じ、社会や生活の造形に主体的にかかわる姿につながる。

(3) 子どもの実態（重複回答、主な項のみ記述）

本学級の子どもたちは、これまでの経験の中で、30名がものをこすって遊んだ経験がなく（※1）、触ったりこすったりするものや場所のイメージがもてない子どもが10名いる。（※2）

実態調査		1年い組	35名（4月中旬実施）
1	ものや場所をこすって遊んだことはありますか。	ある（5名）	ない（30名）※1
2	どんなものや場所をこすってみたいですか。	・教室の壁（25名） ・筆箱（7名）	・教室やろうかの床（17名） ・わからない（10名）※2
3	こすり出したものを見てどんなことに気付くか。※3	・でこぼこしている（12名） ・いもむしみたい（15名）	・気持ち悪い（11名） ・わからない（10名）
4	自分の作品を見せたり友達の作品を見たりすることは好きか。※4	好き（21名）	好きではない（14名） （好きでない理由） ・自分の作品に自信がない ・いいことがない
5	パスを使い、ものを紙にこすり出すことができるか。※5	できる（33名）	できない（2名）
6	こする活動からどのように活動が発展するか。（実技）※6	こする行為自体を楽しむ（20名）（行為志向型） こすったものを基に絵をかくて楽しむ（15名）（作品志向型）	

これは、これまでの経験の中で、ものや場所をただあるものとして捉え、じっくりさわったり、こすったりすることの面白さを実感していないからだと考え。また、こすり出したものへの気付きについて（※3）は、気持ち悪い、いもむしみたいといった感覚的な表現で答える子どもが多く、なぜそのように感じるのかといった模様に着目する子どもは少ない。さらに、分からないと答えた子どもも10名いた。その理由として、これまでものや場所を造形的な視点を基に捉える経験が少なかったり、複数の造形的な視点で見ることができていなかったりするからだと考える。鑑賞活動について（※4）は、自分の作品を友達に見せ合うことについて、14名の子どもが「好きではない」

と答えており、そのほとんどが「自分の作品に自信がない」「交流するよさが分からない」という理由からである。これは、伝え合ったり学び合ったりすることのよさを感じ取る経験が少ないからであると考えられる。さらに、パスを使いものを紙にこすり出すことは、ほとんどの子どもが適切に行えている。（※5）また、こする活動がどのように発展するかについて（※6）は、19名の子どもが行為自体を楽しみ、15名の子どもがイメージを基にこすり出したものに線をかき足し作品をつくり楽しんでいた。

(4) 指導上の留意点

ア 「思いをもつ・見通す」段階では、子どもたちがものをこすって遊ぶイメージをもてるようにするために、教師が実際にこすり出したものを見せ「どのような遊びができそうかな。」と問うことで、活動を予想させ「さわったり、こすり出したりしたい。」という思いや見通しをもたせる。そして、活動への思いを基に「さわったりこすったりして面白い模様を見付けよう」という題材のめあてを設定する。また、材料や場所にしっかり向き合い、自分なりの気付きを実感させるために、教室内の材料や場所をじっくりさわったりこすったりすることのできる時間を設定する。

イ 「思いを表現する」段階では、「もっとたくさんの面白さを発見したい。」という子どもの思いを高め、模様の形や線、さわったりこすったりした感じという造形的な視点を見いだし生かすことができるようにするために、「こすった模様には、どんな面白さがあるかな。」という活動のめあてを設定する。その際、造形的な視点に気付かせることを目的とした鑑賞活動を行わせる。また、造形的な視点と自分のイメージを関係付けて考えさせるために、題材のめあてを振り返らせ表現への思いを高めたり、新たに発見した子どものこすり出したものや特徴や面白さに関するつぶやきを取り上げ、造形的な視点とのつながりが分かるように板書したりする。

ウ 「思いを味わう」段階では、視点を基に、自他の作品を見たり、捉えたよさや面白さをイメージに関係付け表現することのよさを実感させたりするために、題材のめあてやイメージと照らし合わせながら、造形的な視点を基に、自分や友達の表現を鑑賞する活動を設定する。その際、表現したもので遊んだり他者と交流したりすることによって、新たな発見やイメージに変容が見られたことを価値付けていくようにする。

3 目 標

- (1) ・ 模様の形や線、触ったりこすったりした感じといった造形的な視点を理解することができる。
・ パスを適切に用いながら、材料や場所の模様を紙にこすり出すことができる。
- (2) 「模様の形や線」「触ったりこすったりした感じ」といった造形的な視点を基に材料や場所、こすり出したものの特徴や面白さに気付く、自分の表現に生かすことができる。
- (3) 材料や場所をこすり出す活動に興味をもち、体全体を使って、進んでそれらに触ったりこすったりして感じ取ろうとすることができる。

4 指導計画（全2時間）

過程	主 な 学 習 活 動	時間	教師の具体的な働きかけ
思いをもつ・見通す	1 材料や場所をこすり出して遊ぶことについて話し合う。  どこをこすったらあんな模様ができたのだろう。ぼくもこすってみたいな。	↑ 1 (本時)	○ 材料や場所をさわったりこすったりすることに興味をもたせるために、1枚のこすり出した紙を提示し「この模様はどのようにしてかいたのかな。」と問い、活動を予想させる。
	2 題材のめあてを話し合う。 さわってこすって面白い模様をみつけよう。		○ 表現への思いを高め、つなげられるようにするために、紙を鑑賞して、気付いたことややってみたいことを発表させ、「いろいろな場所や材料をこすってみたい。」という思いを基に、題材のめあてを設定する。
思いを表現する	3 教室内の材料や場所をこすって遊ぶ。  同じ場所のようだけど、さわったりこすったりすると、違いがあるなあ。	↓ 1 (本時)	○ 材料や場所にしっかり向き合わせ、自分なりの気付きを実感させるために、さわったりこすったりしたものを友達と見せ合ったりすることのできる時間を設定する。
	4 こすり出した紙を鑑賞する。 こすった模様には、どんな面白さがあるかな。  小さな丸がたくさん集まっているよ。 触ってもこすっても、でこぼこした感じがするなあ。		○ 造形的な視点を見いださせるために、子どもたちがこすり出した紙を黒板に張り出し掲示された紙を見渡させながら気付きを交流させる。その際、活動のめあてを設定し、紙同士を比較させると共に、なぜそのようなちがいが生まれたかについて問う。
思いを味わう	【工夫するポイント】(授業で中心となる造形的な視点) 模様の形や線、さわったりこすったりした感じ	↓ 1 (本時)	○ 気付いた造形的な視点を今後の表現に生かすことができるようにするために、題材のめあてを振り返らせ、さわってこすって面白い模様を見つけないかといった思いを高める。
	5 見いだした造形的な視点を生かして活動する。  ほかにももっとちがう面白い模様が発見できそうだ。 教室だけではなく、テラスにあるものもこすってみたいな。		○ 造形的な視点を生かすよさに気付かせるために、いろいろな材料や場所を模様や感じに着目してさわりこすりだしている子どもを価値付ける。
	6 こすり出した互いの紙を鑑賞し、よさや面白さを伝え合う。  模様の形・線やさわったりこすったりした感じで材料や場所を見たら面白さを見つけることができたぞ。家にあるものも触ったりこすったりしてみたいな。		○ パスを適切に使い、材料や場所をこすり出すことができるようにするために、パスの使い方についての掲示資料を黒板に示し、いつでも確認できるようにする。 ○ 様々な材料や場所の特徴や面白さを味わわせるために、教室以外の場所へも活動を広げることのできる時間を設定する。 ○ 題材全体の学びを振り返り、造形的な視点を基に表現や鑑賞する意欲をもたせるために、造形的な視点を基に自他の作品を鑑賞させ、互いに認め合う場を設定する。

5 本 時 (1 / 2)

(1) 目 標

材料や場所の表面に触れたり、こすったりする活動を通して、材料や場所、こすり出したものの模様の形や線、触ったりこすったりした感じといった造形的な視点を基に、適切にパスを用いて紙にこすり出す活動を楽しんだり、材料や場所の特徴や面白さに気付いたりしながら、自分の思いに合わせて表現することができる。

(2) 本時の展開に当たって

「面白い模様を友達に見せたいな。いろいろな模様の面白さを知りたいな。」といった鑑賞への思いを高め、活動へとつなげるために、子どもたちがこすり出した紙を並べ、見渡させながら感じたことや気付いたことを発表させることで「こすり出した模様には、どんな面白さがあるかな。」という活動のめあてを設定する。また、造形的な視点を基に、自他の作品を見たり、捉えたよさや面白さをイメージに関係付け表現することのよさを実感させたりするために、「どんな違いがあるか。」という観点で話し合ったり、模様や触ったりこすったりした感じといった造形的な視点を基に、新たな材料や場所の特徴やよさを見いだした活動を振り返ったりする時間を設定する。

(3) 実 際

過程	主 な 学 習 活 動	時間	教師の具体的な働きかけ
思いをもつ・見通す	1 題材のめあてについて話し合う。 さわってこすっておもしろいようを見つけよう。	(分) ↑ 15	○ 「どこをこすった紙かな。」「材料や場所をさわったりこすったりしてみたいな。」といった表現や鑑賞への思いを高めるために、「これはどうやってかいたのでしょうか。」と教師がクイズ形式で一枚のこすり出した紙を提示する。そして、「どのような遊びができそうかな。」と問い「いろいろな模様を見つけてみたい。」という思いを基に題材のめあてを設定する。
	2 教室内の材料や場所をさわったりこすったりする。 3 活動のめあてを設定する。 こすったようには、どんなおもしろさがあるかな。	↓ *	
思いを表現する	4 こすり出した模様を鑑賞する。  イメージ 教室の壁をこするとざらざらで面白そう。 イメージ 床をこすってワニをかいてみよう。 自分の作品 ワニの体は床をこすったは、ごつごつした感じがぴったりだな。 友達の作品 教室の壁をこするとざらざらがたくさんある模様になるんだな。 【工夫するポイント】 模様の形や線・触ったりこすったりした感じ (ごつごつ、ざらざら、でこぼこなど)	25	○ 多様な造形的な視点を基に表現を豊かにできるようにするために、子どもたちがこすり出した紙を黒板に張り出し、掲示された紙を見渡させながら違いがあることに気付かせる。そして「どんな面白さがあるかな。」という活動のめあてを設定し、造形的な視点を見いだす鑑賞活動を行う。 ○ 模様の形・線や触ったりこすったりした感じ (ごつごつ、ざらざら、でこぼこ) といった視点を基に表現することの必要感を高めるために、題材のめあてを振り返らせ、工夫するポイントを生かすことで見付けることのできた新たな表現を提示する。 ○ 造形的な視点を生かし表現するよさに気付くことができるように、「見つけた面白さを、模様を生かしているね。」といった、模様の形や線、触ったりこすったりした感じを生かして表現している子どもを価値付け、周りで活動する子どもたちと共有する場を設定する。
	5 さらにいろいろな材料や場所をさわったりこすったりする。 6 こすり出した紙を鑑賞し、自分や友達の作品のよさを紹介し合い、表現の変容について話し合う。  模様の形や線、触ったりこすったりした感じで見ると、新しい特徴や面白さがわかったぞ。もっと違う材料や場所も触ったりこすったりしてみたいなあ。	5 ↓ *	
思いを味わう		5	○ パスの使い方を振り返りながら表現することができるようにするために、パスのもちかたを示したものを黒板に提示する。 ○ 工夫するポイントを基に表現を進め、思いやイメージをより豊かにできた喜びと、友達と互いに鑑賞したよさを味わうことができるようにするために、「どうして材料や場所の特徴や面白さを見つけられたのか。」と問い、表現過程を振り返りながら、表現にこだわるよさや友達との交流の価値に気付かせる。

